

(敷島小) 学校 学校関係者評価書 (後期)

平成28年2月2日(火)

(敷島小学校) 学校関係者評価委員会作成

第2回 学校関係者評価委員会

実施日：平成28年 2月 2日(火) 午後3時30～5時00分

会場：敷島小学校 会議室

参加者

(学校関係者評価委員)

学校評議員：小田切 道之，松土 仁郎，辻 英夫，窪田 敏子，山本 ひとみ

P T A代表：堀端 真 (P T A会長) 武藤 京美 (P T A副会長)

(学校側)

校長 保坂 秀人

教頭 竹野 貢造

教務主任 飯塚 正規

I 学校側から提案された内容

学校側から、12月に学校において実施した「教職員自己評価」及び「児童アンケート」、「保護者アンケート」を基礎資料として分析し、まとめた「自己評価書」に基づき、次の内容について提案があった。

(1) 学校教育目標及び学校経営方針について

(2) 自己評価について

① 全体評価

② 項目ごとの評価結果について (達成状況・改善策)

(ア) 学校教育目標・学校経営について

(イ) 学校運営について

(ウ) 学習指導について

(エ) 生徒指導について

(オ) 地域との連携について

(カ) 学校の特色に関して

(3) まとめ

II 協議された主な内容

1 学校教育目標・学校経営・学校運営について

- ・ 教職員の自己評価 (学校経営, 学校運営, 学習指導, 生徒指導, 地域との連携, 学校の特色等) に関する各設問に対し, 平均すると95%以上の職員が「そう思う」「ややそう思う」といった肯定的な回答をしている。また, 児童アンケートの「学校は楽しいですか」の設問に対し, 全校児童の92.2%が「とても楽しい」「楽しい」と回答し, 保護者アンケートの「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う。」の設問に対しても, 「とても思う」「思う」が合わせて93.8%となっている。このことから, 教職員は積極的に職務にあたっていること, 児童や保護者はその教育活動に満足していることを推察することができる。
- ・ 豊かな心の育成というねらいから奉仕活動を教育活動に位置づけ, 各家庭と連携した「牛乳パックの回収」や「親子クリーン作戦」, 総合的な学習の時間における

る福祉教育を行っているが、さらに取組や交流を進めていきたい。

- ・校舎内外の施設設備の定期点検や日常の点検結果に基づく修繕等については、校舎が老朽化傾向にあることもあり、職員の意識も高く、事故防止に積極的に取り組んでいる。しかし、危機管理、特に不審者侵入に関しては、学校施設の状況（門扉の施錠や防犯設備が未整備）に引き続き課題がある。

2 学習指導について

- ・教職員アンケートで「民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている」「個に配慮した授業を行っている」の設問に対し、両設問とも「そう思う」「ややそう思う」が100%であった。これは、絶えず学習習慣づくりと個に応じた指導の工夫を心がけている表れであると考えられる。このことは、児童アンケート「学校の授業は楽しいですか」の設問に対し、「とても楽しい」が50.2%、「楽しい」が40.4%、「先生はよく授業を教えてくださいか」に対し、「よく教えてくれる」が81.4%、「教えてくれる」が17.4%、といった結果と合致している。また、保護者アンケートで「お子さんは、授業の内容がわかっていると思う」「学校は熱心に授業に取り組んでいると思う」の両設問に対し、「とても思う」「思う」が、それぞれ87.7%、92.2%と回答しており、本校教員の学習指導に対し、概ね満足しているものと捉えることができる。
- ・児童の授業に関するアンケートで「算数の授業の内容はわかりますか」という設問に対し95.6%の児童が「よくわかる」「わかる」と回答している。前期に比べ1.6ポイント上がっている。しかし、「授業中に意見や質問を言っていますか」の設問に対しては、「よく言っている」「言っている」を合わせても70.6%にとどまっている。今後も、主体的に学習に臨む態度を育成していく必要がある。
- ・確かな学力を定着させるために、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、主体的な学習態度の一層の育成を図る。このため、体験的な学習や問題解決的な学習、言語活動を教育活動へ適切に位置づけるようにする。言語活動の充実に関しては、言語環境づくり（会話、あいさつ、放送）や意図的な言語活動の日常化を図る取り組み（1分間スピーチ、学習感想等）をさらに充実させていく。
- ・昨年度に引き続き、校内での研修として算数科に焦点を当て、子どもたちの学習意欲につながる研究を行っている。その成果がアンケート結果からも読み取ることができる。

3 生徒指導・地域との連携・学校の特色について

- ・生徒指導に関連する設問「教師と児童との関係～相談できる先生がいる」に対し、教職員は「児童理解のためのコミュニケーションを図っている」の設問に、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて100%であるのに対し、児童は「もしこまったことがあったら、相談できる先生がいますか」の設問に対し、「いる」が76.7%であった。さらに保護者は「お子さんのことで相談できる先生がいますか」の設問に対し、「いる」が72.2%となっている。教師と児童のコミュニケーションを図ること、問題行動等には引き続き組織的な対応を行うことを確認しておきたい。
- ・規範意識に関連する設問「あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り

組んでいる」に対し、教職員は「指導に取り組んでいる」の設問に、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて100%であるのに対し、児童は、「学校のきまりや約束ごとを守っていますか」に対して、7.6%が「あまり守っていない」「守っていない」と回答している。道徳教育を要として更に児童の健全な心の育成を一層図ってほしい。

- ・保護者や地域の方々による学習支援に関して、教職員アンケートで「教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす活動を行っている」の設問に対し、「そう思う」「思う」が合わせて、80.0%であった。

総合的な学習の時間や生活科の学習で多くの支援を得ている実態がある。

- ・挨拶に関連して、教職員のアンケートで「進んであいさつするように、指導に努めている」の設問に対し、「そう思う」「思う」が合わせて96.4%であった。児童アンケート「地域の人と出会ったらあいさつをしていますか」に対し、「よくしている」「している」が合わせて94.8%であり、前年同期より5.0ポイント上がっている。保護者アンケート「ご家庭では、家族で互いに挨拶するようにしていますか」に対し、「よくしている」「している」が合わせて95.4%であった。また、「地域の人々に出会ったら挨拶をするように言っていますか」に対し、「よく言っている」「言っている」が合わせて87.4%であった。学校、家庭での指導と実践を引き続き行って行きたい。
- ・保護者アンケート「学校は音楽活動に力を入れて取り組んでいると思う」に対し、「そう思う」「思う」が合わせて95.0%であった。全校合唱、音楽集会、合唱部の活動等、本校の音楽活動は地域や保護者によく理解され、高い評価を得ている。

＜学校関係者評価書＞

I 全体評価

- ・教職員の自己評価や児童アンケートの回答から見ると、前期と同様、教育活動及び学校運営（学校経営、学校運営、学習指導、生徒指導、地域との連携、学校の特色等）について、「そう思う」「ややそう思う」と回答している割合がほとんどである。これは、校長のリーダーシップの下、年間を通して教職員が学校経営方針を理解し、日常の教育実践や校務分掌を処理してきたということである。教職員が自覚と責任をもって職務に専念したととらえている。
- ・児童アンケート「学校は楽しいですか」及び保護者アンケート「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」に対する肯定的な回答が高く敷島小の教育活動が児童やその保護者に良く理解されている。
- ・「P→D→C→Aサイクルで教育活動が取り組まれている」「P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている」の両設問に対し、教職員が高い意識を持って改善システムを活用し、絶えず評価、改善を行っていることが評価することができる。

II 特徴

- ・あいさつに関しては、児童が進んであいさつができるよう教職員が共通理解の下引き続き指導に努めていること。また、地域住民の方々、保護者にも積極的に協力してもらうことが必要である。児童が地域においても育てられていることが大切

である。今後も、繰り返し指導し、「あいさつの声がひびきあう学校」「心のこもったあいさつができる児童の育成」を目指し、取り組んで欲しい。

- ・学校の特色の一つである音楽活動は保護者から高い評価を得ている。学校が特色ある活動として位置づけ、全校を挙げて取り組んでいることを保護者にもよく理解されている。良い伝統としてこれからも継承すると共にすばらしい活動を、大いに地域に発信して行って欲しい。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・学校教育目標「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成」の達成に向け、確かな学力の定着については、校内研究を中心として、指導法の更なる改善に向けた実践的な研修（研究授業中心）を積み重ねること。豊かな心の育成については、道徳の時間の指導方法の工夫改善、自然体験や勤労・奉仕体験等の体験活動を教育活動全体へ適切に位置づけること。健やかな体の育成については、体力テストの結果や児童の実態を踏まえて、引き続き異年齢集団や全校での活動を工夫し、運動の日常化を図りながら体力の向上を図ることを意識されたい。
- ・学校評価で明らかになった家庭での学習のあり方、PTAの自主的活動の推進、地域の人材活用などの課題解決に向け、学校、家庭、地域が一体となり、PDCAサイクルを有効活用して取り組んでいただきたい。また、学校での取組が家庭にも理解されるよう、今後も適宜適切な情報発信を心がけること。
- ・危機管理については、マニュアル細部の確認をしていく必要がある。特に児童の安全な行動の取り方や対処法、避難場所の確認などと併せ、保護者や地域、関係機関と連携しての実効性の高い防災訓練と防災教育を積極的に計画・実施すること。また、些細なことであっても児童の健康・安全に関することは迅速に家庭に周知し、協力を求めることに努めていただきたい。
- ・家庭学習については、発達段階に応じた内容と量を考える中、家庭と連携し習慣化し、学年が上がるに従って、質の高い自発学習へ取り組む姿勢を身につけさせていく。そのためにも引き続き「自学のすすめ」の取組を行っていく。
- ・家庭との情報交換や教育方針の共有を図るとともに、学習や生活上の個別相談、あるいは家庭訪問等により問題への早期対応、早期解決を図る。また、貧困問題のように生活格差が学業成果の格差につながっていることもある。必要に応じて、SC（スクールカウンセラー）SSW（スクールソーシャルワーカー）などの専門家や教育委員会といった関係機関と連携していくことを大切にしたい。
- ・地域の公的教育機関として、授業参観や懇談会の定期的開催、諸行事への参加、交流や共同学習の実施、地域への物的開放（施設開放）、機能の解放（教員の専門性を生かした講座、教科等に関わる講座）を図ることはもちろん、生涯学習の視点で、地域の人々や高齢者が学習した成果を学習支援といったことで、学校教育に生かすことができるよう努める必要もある。

※特記事項 なし

記載責任者（敷島小学校 学校関係者評価委員） 氏名：小田切道之 印